

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00082

研究課題名(和文)日本における障害者自立思想の覚醒と大仏空の宗教思想との関連の宗教学的検討

研究課題名(英文)Religiological survey on the relation between awakening of the disabled in Japan and OSARAGI Akira's religious thoughts.

研究代表者

山崎 亮 (Yamazaki, Makoto)

島根大学・学術研究院人間科学系・教授

研究者番号：40191275

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本における障害当事者運動の重要な先駆として、横塚晃一や横田弘を中心とした1970年代の「青い芝の会」の運動を挙げることができる。本研究では、横塚や横田に決定的な影響を与えたとされる宗教者大仏空に焦点を合わせ、彼の未知のテキストを発掘・整理して「大仏空著作集」として公開するとともに、「自覚と叫びとしての念仏」さらには「問題提起としての宗教」という大仏独自の宗教思想を解明した。さらにそれが、「われらは自らがCP者であることを自覚する」「われらは強烈な自己主張を行なう」「われらは問題解決の路を選ばない」といった「青い芝」の行動綱領にみられる障害者自立思想の源流に位置することを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「青い芝」の運動と思想については従来、社会学や文学、障害学を中心として研究されてきたが、その宗教的側面についてはほとんど検討されてこなかった。本研究ではまず、願成寺の住持でありながら若き日にカトリックの洗礼を受けた大仏空による未知のテキストを多数発掘・公開し、今後の研究の進展に寄与できた。さらに仏教やキリスト教に限定されない大仏独自の宗教思想を解明することにより、横塚や横田の障害者自立思想の背景にある「宗教的なもの」の位相に光を投げかけることができた。これを通じて、「青い芝」による1970年代の障害当事者運動を考える上で、既存の枠組みにとらわれない新たな視座を提供できたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The Japanese Association of People with Cerebral Palsy, "Aoi Shiba no Kai" in which YOKOZUKA Koichi (横塚晃一) and YOKOTA Hiroshi (横田弘) were its core members, was the famous forerunner of the modern movement by disabled people in Japan in the 1970s. In this research, I focus my attention on a religious thinker OSARAGI Akira (大仏空) who had a great influence on YOKOZUKA and YOKOTA. I collected his unknown texts and published them as "Collected Essays of OSARAGI Akira", and explicated his original thoughts on "Nenbutsu (念仏) as Awakening and Shouting" and "Religion as Raising Problems". It is founded that Osaragi's religious thoughts were the sources of thoughts on autonomy of disabled persons in Japan which are showed in "Platform for Aoi Shiba Movement" such as "We identify ourselves as people with Cerebral Palsy (CP)", "We assert ourselves aggressively" and "We do not choose the way of problem solving".

研究分野：宗教学

キーワード：大仏空 カトリック 念仏 横塚晃一 横田弘 「青い芝」の行動綱領

## 1. 研究開始当初の背景

1970年代「青い芝」——基本的には横塚晃一(1935-78)と横田弘(1933-2013)が所属した「青い芝の会」神奈川県連合会を中心とする——の運動が、社会から疎外され続けてきた障害者が初めてみずから思想的な自己主張を行なったという点で、日本における障害当事者運動の画期的な先駆となったことはあらためて指摘するまでもない。ほとんどの場合、西欧からの影響によって新たな方向性が切り開かれてきた日本の福祉領域において、独自の形で豊かな障害者自立思想が芽生えた事実の重要性は、強調してもしすぎるということはない。

そして、1970年代「青い芝」の中核メンバーとなる横塚と横田はいずれも、1960年代後半、宗教者大仏空(1930-84)が主催する「マハラバ村」——大仏がみずから住持を勤める閑居山願成寺(現茨城県かすみがうら市)を開放して主催した脳性マヒ者の生活共同体——での共同生活を体験して、とくに親鸞の『歎異抄』を援用する大仏独自の宗教思想に強い影響を受けていた。言い換えれば、大仏の宗教思想に触れることによって彼らのなかにいわば内発的に独自の障害者自立思想が覚醒したと考えられるのである。

とするならば、大仏の宗教思想のなかに「青い芝」の障害者自立思想の源流を見出すことができるはずであるが、従来、これを正面から見据えた研究はほとんどなかった。

## 2. 研究の目的

大仏の宗教思想がどのようなものであり、そのなかの何が、「青い芝」独自の障害者自立思想を覚醒させたのか、これを解明することが本研究の目的である。

大仏の宗教思想と「青い芝」との直接的連関を詳細に検討する研究がこれまでほとんど見られなかった背景としては、横塚や横田が大仏の影響に言及する際もその内実にはほとんど触れないままであったこと、直接アクセスできる大仏の著述が少なく、また飛躍のある論理展開もあってその理解が難しいこと、そのような資料的制約のみならず、従来、障害学を中心として「青い芝」の運動と思想を取り上げた研究者のなかに、宗教ないしは宗教的なものへの関心が決定的に欠落していた点を指摘できるだろう。

その意味で、宗教現象を客観的にとらえようとする宗教学の視点から大仏独自の宗教思想とその影響を検討しようとする本研究は、これまでにない独自の試みと位置づけることができる。

## 3. 研究の方法

何よりもまず、大仏の宗教思想を解明する上で不可欠の作業として、彼の著述の発掘に務めるところから出発した。ゆえあってその肉筆原稿はほぼ失われ、既発表のものも、『しのめ』や『親鸞』といった、公立図書館にも所蔵されていないマイナーな同人誌に掲載されたものや、あるいは私家版のパンフレットがほとんどである。国立国会図書館や神奈川県立図書館等での探索はもちろんのこと、大仏の息女増田レア氏の全面的な協力のもと、残された大仏の蔵書、また横浜市の障害者活動センター「きょうの会」に寄贈された横田弘の蔵書も調査し、多くの未知のテキストを発掘することができた。

他方で、同じく国会図書館や神奈川県立図書館所蔵の『あゆみ』や『青い芝』等、「青い芝」関連の機関誌も精査し、横田や横塚を中心とした当時の「青い芝」の運動状況、さらにはこれを支える思想的背景についても考察を深めた。

これらの作業のなかで発見された新資料の解読作業を通じて、大仏の宗教思想の全体像を提示し、さらには横塚や横田へのその影響を明らかにすることになる。

## 4. 研究成果

これら一連の作業を通じて30点に及ぶ大仏の著述を収集し、そのなかの19編——うち11編が今回の探索で新たに発見されたものである——を、「I基底としての宗教」「II障害者解放に向けて」「IIIみずからを語る」「IV歴史へのまなざし」「V晩年の思索」の5つのセクションに分けて、「大仏空著作集」として公開した。

とくに、いずれも新発見となる、処女作『聖道 念仏義抄文』(1950年代半ば)や「最大の念仏者 キリスト」(1966年)は、彼の念仏観=宗教思想の中核を示すきわめて貴重なテキストであり、さらに横塚晃一の「ある障害者運動の目指すもの」(1974年)を改名・分節化して大仏が註記した『CP解放運動のめざすもの』(1975年?)は、横塚による大仏の思想の受容に、若くしてカトリックの洗礼を受けていた大仏自身が反応して成立したパンフレットであり、両者の直接的関連を窺い知ることのできる興味深い資料である。これ以外にも、本研究による大仏のテキストの整備と公開は、今後の「青い芝」研究にとって重要な寄与になると考えている。

これら新たに発掘されたテキストを解読するなかで、「自覚と叫びとしての念仏」と「問題提起としての宗教」という、大仏独自の宗教思想の構造を剔抉することができ、さらにその延長線上に、「われらは自らがCP者であることを自覚する」「われらは強烈な自己主張を行なう」「われらは問題解決の路を選ばない」といった、「青い芝」の行動綱領が位置していることが明らかになった。仏教やキリスト教といった既存宗教の枠組みを超越した大仏独自の念仏=宗教思想

と「青い芝」の行動綱領とのあいだの密接な思想的連関を、テキストに即した形で明確に提示したことは、従来誰もなしとげることのできなかつた新たな達成であると自負している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 山崎亮	4. 巻 7
2. 論文標題 大仏空の宗教思想と「青い芝」 自覚と叫びとしての念仏	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 島根大学人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山崎亮	4. 巻 9
2. 論文標題 大仏空著作集（三） 歴史へのまなざし / 晩年の思索	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 島根大学社会福祉論集	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山崎亮	4. 巻 6
2. 論文標題 大仏空著作集（二） 障害者解放に向けて / みずからを語る	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 島根大学人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 27-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山崎亮	4. 巻 8
2. 論文標題 大仏空著作集（一） 基底としての「宗教」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 島根大学社会福祉論集	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山崎亮
2. 発表標題 自覚と叫びとしての念仏 大仏空の宗教思想と「青い芝」
3. 学会等名 第14回山陰社会福祉研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山崎亮
2. 発表標題 「青い芝」の一元流としての大仏空 そのテキストと思想
3. 学会等名 障害学会第20回大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------